

9月1日は、「防災の日」

9月1日は、防災の日です。

この日は、「政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」こととした日本の記念日です。

防災の日は、1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災にちなんだもので、関東大震災の教訓を忘れないことと、この時期に多い台風への心構えをするという意味を含めて1960年（昭和35年）に制定されました。

毎年、9月1日の防災の日を中心に、8月30日から9月5日までを防災週間とされています。

『天災は忘れた頃にやってくる』この言葉は、寺田寅彦（てらだとらひこ、1878～1935）という物理学者の言葉です。寺田氏は、防災学者として、地震・台風・火山等の被災地を調査し、そこから得た教訓だそうです。

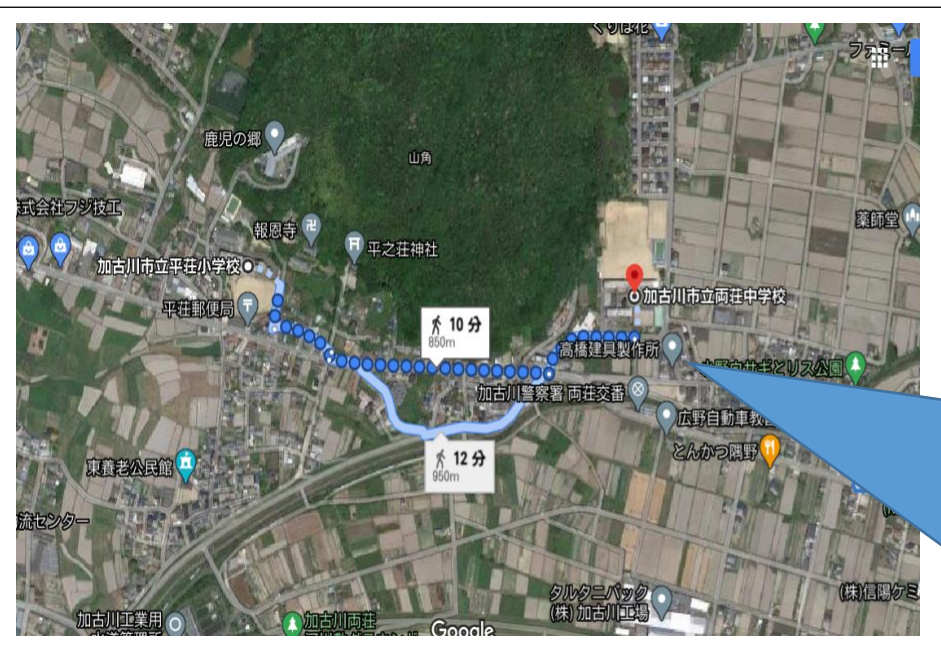
平荘小学校のある場所は？

現在も台風が発生しています。全国各地で、大雨の被害等、災害が発生している状況です。私たちの地域でも油断はできません。平荘地区では、ちょうど本校が、土砂災害の危険箇所（ハザードマップによる）に指定されています。「いざ」というときに、自分の命を守る行動について、ご家庭でも話し合う機会をとっていただけるとありがたいです。

下の写真は、本校の玄関（職員室のドア）に掲示しているハザードマップです。



土砂災害時の避難確保計画 （2022年4月作成）



『土砂災害時の避難確保計画（市との連携）』は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に係る法律第8条の2第1項に基づくものであり、本校施設の利用者災害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的としています。左図は、土砂災害時における経路図です。避難場所は、両荘中学校（施設の3階）となっています。

学校保健委員会を開催しました



8月26日（金）に、学校保健委員会を開催しました。平荘小学校の眼科校医である木村眼科医院の木村良平院長を講師に、『子どもたちの目の健康』についてお話を伺いました。参加者は、PTA（保護者代表）と教職員です。

〈木村先生のお話を聞いて〉

- ・「目は心の窓」と言われるくらい、情報の9割は目からだそうです。
- ・子どもの目の発達について…子どもは、最初は遠視ですが、成長するにつれてだんだん近視化してくるそうです。
- ・調整過緊張症（仮性近視）と近視は違うそうです。近視には、遺伝要因と環境要因があり、近視化する原因（環境要因の中）に、近くを見続けることが関係しているそうです。近くを見続ける活動より、屋外で活動する方が近視になりにくいそうです。遠くを見る機会をつくとよいです。子どもたちの屋外活動は有効的です。
- ・残念なことに、近視は治らないと言われています。近視の度合いをすすめるのを緩やかにすることはできるそうです。
- ・就寝時は、「明るい中で就寝する」より「真っ暗な状態で就寝する」方が、目に良いそうです。
- ・ICT 機器と視力は関係があるそうです。
- ・目の健康啓発マンガ『ギガっこ デジたん』の紹介をしていただきました。目についてわかりやすく説明されているそうです。

2学期初日の子どもたちの姿は？頑張っています！

- 2学期がスタートしました。登校時に、地域の方や交通安全指導員さんに、「おはようございます。2学期もよろしくお祈りします。」と進んであいさつをする高学年の児童がいました。
- 始業式をするために体育館に入ってきた6年生が、「先生、下の窓と2階の窓を開けましょうか。」と声をかけてきました。「開けてくれる？」と返すと、6年生が素早く活動を開始しました。
- 始業式の際の子どもたちの話の聞き方は、目と耳と心を使ってしっかりと話を聞くことができました。
- 6年生（男子）が、夏休み作品展の会場準備を主体的にしてくれました。校舎のいろいろなところから長机を体育館に運んでくれました。



職員の紹介です

本日、本山幸太朗先生が着任しました。主に3～6年生の児童に関わります。よろしくお祈りします。